

## すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	平成 29 年 3 月 13 日 (月) 午後 6 時 30 分～ 7 時 35 分
○場 所	かたらいの道 市民スペース
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、松田委員、藤野委員、鶴川委員、大杉委員
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長 他

### 1 開会

事務局より資料確認

### 2 委員長あいさつ

### 3 議事

(1) 第 1 回委員会意見への対応状況

(2) 平成29年度事業計画について

#### 【事務局】

審議に入る前に、本日配付している資料 3 の「委員事前質問」について事務局から補足したい。3 つ目の質問の「『こらぼのコミセン親子ひろば』開始の経緯や実際はどのようなのか」という点だが、実際については後ほど団体から説明があるが、開始の経緯については、市の関係する部分なので、ここで簡単に説明する。

市では今「コミセン親子ひろば」と「collabono (こらぼの) コミセン親子ひろば」という 2 種類のひろばを 12 か所のコミセンで開催している。当初は全て、市直営で月 1 回実施する「コミセン親子ひろば」だったが、地域全体で子育てを支えてもらう仕組みを作るため、徐々に「collabono (こらぼの) コミセン親子ひろば」に移行してきている。これはさまざまな地域の団体やコミセンが、地域の力で運営するもので、現在では 7 か所が

「collabono (こらぼの) コミセン親子ひろば」になっている。市としては今ある直営のひろばも、地域に担ってもらえるよう、取り組みを進めていきたいと考えている。

このうち、中町集会所のひろばについても、当初は直営のひろばだったが、コミセンから月 2 回の「collabono (こらぼの) コミセン親子ひろば」にしてもいいという意向が示された。ただ、担い手がいないということで、市からいずみの会に打診して、引き受けてもらえることとなった、という経緯がある。市の方針とコミセン、団体、それぞれの意向が合致して、実施してもらうこととなった次第である。実際の運営の内容については、団体から説明してもらう。

#### ※運営団体NPO法人いずみの会が入場

< 第 1 回委員会意見への対応及び平成29年度事業計画について説明 >

## 【いずみの会】

まず、第1回委員会意見への対応状況については、委員事前質問一覧の中にも同様に研修、人材育成についての項目があったので、そちらで合わせて回答することとしたい。後ほど資料3に沿って回答する。

平成29年度事業計画については、資料2の通りなので、要点のみを説明したい。まず、団体としてのアピールポイントは、やはり3つの事業を運営しているというところで、市民で立ち上げた団体が、子育て支援事業として先進的な事例を継続して運営している点だと考えている。現在の新しい理事も、保育の専門性を持った人材や、地域の人材で構成されている。

運営理念については、これまでと同様、保育、ひろばの2本柱ということで、自然に囲まれた地域で、蔵書を活用した運営によって、子どもの豊かな感性を育む、楽しく豊かな原風景となる場を作る、ということを中心に心掛けています。

それから、地域の中の多世代の交流を大切に、子育てを通してみんなが豊かな時を過ごす場を、という理念があり、特に、子育て不安、負担感、孤立感を軽減するための情報を得られる場を作るということを中心にしています。

特に29年度に力を入れたいこととして、各事業間で話し合い、連携を取れるような仕組みづくりを進めるということがある。すでにサブリーダー制を取り入れて、各ポジションごとにミーティングをするという取り組みをスタートしています。

大事なこととして、個人情報の漏えい等を防ぐということがある。それから、スタッフの健康面についても、目を配るようにしたい。もっとも大事なものは、安全面と考えており、今も避難訓練、不審者対応は毎月行っているが、それを重ねながら、そのつど改善を進めていく。

あとは、ひろばと一時預かりと小規模保育、それぞれの実践を積み重ねていきたい。ひろばについては利用者のスキルを活かしたイベントを行うと、とても広がりが出る。今年度も父母による音楽やダンスのイベントをやったが、日常のひろばの過ごし方と合わさって良い状況を生んだ。また、ボランティアの受け入れを進めていくほか、スタッフ研修も積極的に推進したい。今も、参加したスタッフがミーティングで報告をし合い、お互いに向上意欲を高める結果になっている。

一時預かりについては、安心、安全な保育は当然だが、そのための環境づくりをし、寄り添ったサポートをしていきたい。

小規模保育もやはり安全に子どもの成長のための保育を実践していくため、常勤の保育士の雇用をしていきたい。今も回り始めてはいるが、核となる部分をしっかりとすることで、子どもたちの安定した日常づくりを強めていきたい。また、保護者との信頼関係を構築する。ノートや写真などを活用しつつ、保育室の日常の流れに対して、働いている保護者が安心できる施設づくりに取り組んでいく。

その他、事業計画については細かい点は計画書を読んでもらいたいですが、7ページところにある、一時預かりについての「命を守り無事にお返しする」「安心して保護者を待てるような子ども心の安定」「安心して子どもと離れていられるような保護者からの信頼」という部分は、ミーティングのたび、唱え言葉のように皆と確認して、柱としている。ひろば事業では、ほっと

できる居場所、お母さんが幸せだと子どもも幸せなんだ、ということコンセプトにしている。  
日常のひろばのほか、子育て相談などもさらに進めていきたい。

<委員事前質問一覧に対する回答>

いずみの会より資料3の通り説明がなされた。(省略)

<質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

**【委員】**

最初に確認だが、収支予算書は今回資料に含まれていないが、予算書は審議の対象でないということで良いか。

**【事務局】**

今回は収支予算書は抜きで、事業計画書本体についてのみ審査してもらうことになる。  
計数に関することは、予算ではなく実績の段階で、次回委員会で審査してもらう。

**【委員】**

資料3別紙の人員配置表についてだが、同じスタッフでも、1日の中で真ん中が抜けていることがあるが、この間はどのようにしているのか。

**【いずみの会】**

保育事務をしているが、保育のシフト表なので、それは含まれていない。残業になりすぎないように、仕事内容によって途中事務のために抜けたりしている。

**【委員】**

それは良くないのではないか。事務なら事務仕事で、きちんと賃金が支払われるように、シフトに示したほうが良い。一日フルで働くと10時間以上になってしまうので、勤務時間をコントロールすべきだ。ほかの非常勤のスタッフを配置したり、常勤のスタッフをシフトしたりして、ブラックにならないように気をつけたほうが良い。

**【いずみの会】**

たとえば3月22日の保育室長などは、朝保育に入った後は、ずっと自由になるので、前の日に勤務が長かった場合は、ここで休みを取るようなこともできる。ただ、たしかにシフト表で全て見えるようにしたほうが良いと思う。(事務局注記：現在は、保育シフト表とは別の出勤簿で、保育以外の事務等も含めて勤務時間全体を管理しており、給与はそちらの出勤簿に基づき計算されている。)

**【委員】**

サービス残業にならないように気を付けてほしい。

**【委員】**

保育室長は理事になるのか。

**【いずみの会】**

理事ではない。

**【委員】**

利用者もスタッフも地域の人同士ということで、和気あいあいと運営されている様子が

うかがえたが、逆に地域だからこそ言いにくいこともあるのではないかと。利用者がクレームだとか、こうしてほしいという意見を、あるいはスタッフが労働条件などの意見を言いにくいのではないかと、そのあたりを具体的に吸い上げて共有する仕組みなどは考えているのか。

**【いずみの会】**

今年度については、スタッフに関しては全員にアンケートを行った。今個々に面接を行っているところで、働き方等の意見があれば言ってください、という機会を設けている。常にミーティングでも発言はしてもらっているが、このように個々の意見を聞く場も設定している。利用者については、言いにくいということがあるのかどうか分からない。

**【委員】**

当初だと、一時預かりの料金のことなどで意見があったかと思うが。

**【いずみの会】**

今は、予約が取りにくいという話がチラチラと出てきている。ちょうど10時から15時くらいまでのコアな時間帯が非常に混んでいて、予約が取りにくいと言われていて、その人たちには、スタッフが気持ちに寄り添う形で、この時間なら取りやすいとか、こういう取り方をしてはどうか、といった話をするように、本日もスタッフのミーティングで確認したところだ。また、使いやすくするために、具体的には4月から、これまで際限なく取れていた予約を、1日の電話で3件まで、という制限を設け、もっと取りたい人は翌日に電話してください、という対応にする。

**【委員】**

武蔵野市でも利用者支援事業をどこかでやっていると思うが、たとえばこうした予約が取れないときなどに、そういう人に相談できる仕組みやネットワークはできているのか。

**【いずみの会】**

他の預かりの事業者を紹介したり、ということはしている。

**【委員】**

それは利用者支援事業所ではなく、すすくすく泉でやっているということか。

**【いずみの会】**

そうです。

**【委員】**

そこを利用者支援事業につなぐというようなことは意識しているか。

**【いずみの会】**

具体的にはつながっていない。

**【委員】**

利用者支援事業が他の資源を紹介する、ということをしているはずなので、すすくすく泉の拠点としての情報提供以外にも、たとえば利用者支援事業所との連携が出てくるともつと良いのかもしれない。利用者支援事業所の人に、何かのときにすすくすく泉に来てもらうということも考えられる。

**【いずみの会】**

まだそれはできていないので、これからつながっていきたいと思う。

**【委員】**

「collabono（こらぼの）コミセン親子ひろば」への出張は素晴らしいと思うが、ここは十分に予算が取れているのか、また、そこに行くスタッフは固定なのか。

**【いずみの会】**

2人で行っているが、メインのスタッフは固定で、もう1人は施設のひろば担当が交代で行く。

**【委員】**

私たちがいるから来て、と紹介しているということだが、ではひろばのスタッフがコミセンにも行って、顔はつながるといふことか。

**【いずみの会】**

そのようになっている。また、予算については、すすくすく泉の事業の中での展開という形を取っているため、人件費は別にはもらっていない。人件費以外は、別途1回4千円の補助金が出て、備品やおもちゃを買ったり、ボランティアへの謝礼を払ったりしている。人件費はすすくすく泉のひろば事業の出張となっている。

**【委員】**

月2回だと、地域子育て支援事業の加算にはならないと思うので、自主事業として、ひろばの出張、アウトリーチをしているということか。

**【いずみの会】**

そういうことになる。

**【副委員長】**

事業計画の中で、29年度に力を入れて取り組みたいこととして、安全な環境の整備を挙げていて、ここはとても重要だという話だったかと思うが、職場のスタッフが連携して対応出来る仕組みづくりを更に進める、と書かれている部分について、もう少し具体的に内容を聞かせてもらいたい。

**【いずみの会】**

昨年度や、一昨年度はひろばの避難訓練があまり実施できていないような状況だったが、今年度からは係を決めて、うまく回り始めたところだ。ひろばや一時預かりのスタッフの動き方とか、持って出る物とか、どういう風に声をかけるのかとか、誰がどういう役割なのか、といったことが、かなり共有して動けるようになってきた。ただ、隣の小規模保育室と、ひろば・一時預かりの連携の取り方については、まだまだこれからやらなくてはいけないと考えており、連携して対応できる仕組みづくりとはそういうことになる。また、不審者対応も、警察の人を呼んで訓練をしてみて色々と分かることがあって、いかに不審者を足止めするかとか、どういう声をかければ良いとか、名簿に名前を書いてもらって時間を稼ごうとか、そういう仕組みづくりを始めていて、どうやって逃がすのか、出入り口が狭いのをどうするのか、といったことを考えている。

**【委員】**

小規模保育事業について、常勤保育士の雇用を今後進めていきたいということだが、今年度1名増員となっていて、さらにプラスで雇用を考えているのか。

**【いずみの会】**

今の常勤保育士2名にプラスして、1名の雇用を考えている。来年度すぐには間に合わなくても、来年度いっぱい採用して、次の年には常勤保育士がもう1名増員出来たということを目指している。なぜかという、シフト表にあるように、午前中は常勤保育士が8時半から2時半まで入っているが、午後の保育はわりと流動的になりやすく、昨日の遊びをまた今日やると言ったときにも、スタッフが違くと分かりにくいとか、遊びのつながりや積み重ねの部分で弱いなど感じている。午後に中心に入ってもらえる常勤保育士がいれば、一本軸が通るので、毎日の継続ができるし、子どもの安定という意味でも良いものになっていくだろうということで、午後の保育士を1名雇用したいと考えている。

**【委員】**

今年度卒園生が出たということだが、連携というか、その先の保育の確保はうまくいっているのか。

**【いずみの会】**

6名2歳児がいて、うち1名は幼稚園に行ったが、あとの5名は他の保育園に入ることができた。

**【委員】**

それは特にすすくすく泉で何かをしたということではなく、個別の申請で入ったということか。連携園とかそういうことではないのか。

**【いずみの会】**

個別の申請だった。まちの保育園吉祥寺という連携園はあるが、2歳から3歳に上がるころの枠が増えないので。

**【委員】**

では保育の上での連携ということか。

**【いずみの会】**

保育の上での連携になる。

**【委員長】**

ここで質疑を終了します。いずみの会の方々はここでご退場ください。

**※NPO法人いずみの会が退場**

**<審議>**

**【委員長】**

それではいずみの会の説明、質疑等を踏まえて審議に入りたい。前回の委員会意見への対応状況と、29年度の事業計画についての2点だが、まず前回の委員会意見への対応状況についてはどうか。「法人内での研修等へのバックアップを続け、人材育成に努めてほしい」という文言を付していたが。

**【委員】**

研修のところは、ずいぶん熱心に行っているのではないか。それをシェアもしているので、そこは素晴らしい。ただ、常勤の人しか出かけられないとか、そういうことはないと思うが、出られる人が偏らないと良いな、とは思う。

**【委員】**

研修については、小さい法人で、母体となるものもないので、体系的な研修というのはなかなかできていないのではないかと。本来であれば、個人別に研修計画を作って年間を通して、というのが望ましいが、すぐには無理だろう。ただ、中長期的には、個人別にそれを作ることも考えていいと思う。今は単に講義を聞いているだけの集合研修だけなのでは。

**【委員】**

ワークショップなども入っているので、講義だけではないと思うが。

**【委員】**

ただ、非常勤職員が多いので、なかなか難しいとは思いますが、今後は個人別の計画まであるとよい。

**【委員】**

受けもれたりしてはいけないので、今年受けられなかったら来年受けるとか、そういうチェック項目のようなものがあると良い。

**【委員】**

それも大変だと思うが、いくつも施設を持っていて内部で交流できるということがないので、外部に行ったほうが他の状況が分かっている。そこは積極的に取り組んでいる様子が見える。これに行ったら良いのでは、というものにはだいたい行っているのではないかと。ただ、お金のかかるものにはあまり行けないのかな、というのは見える。

**【委員】**

これ以外にも、市の保育園の全体研修にも参加しているだろうし、保育園同士の連携した研修にも行っている。今度、近くに新しい保育園もできるので、そういった連携も進められるのではないかと。

**【委員長】**

それではどのような委員会意見とするか。研修や人材育成についての努力が認められたということと、それから各個人の研修計画を付け加えるか、そこまで言及しないでおくか。

**【委員】**

各個人の研修計画は、検討を始める、くらいなのではないかと思うが、ただ、常勤の人にはやってもらいたい。

**【副委員長】**

偏りなく、という程度の表現で良いのでは。

**【委員】**

やれと言ってしまふとまたそれは大変だ。

**【委員】**

資格を取ったスタッフが3人いるのは素晴らしい。組織としても成長している。

**【委員長】**

そうすると、「研修や人材育成の努力が認められたので、引き続き継続して努力してほしい」という意見で良いか。

**【委員】**

小規模保育は、研修に行っている間に代替の職員が確保されるような予算上の措置があ

るのか。

【委員長】

それはないそうだ。

【委員】

それがないのであればあまりきついことは言えない。保育自体が回らなくなる。

【委員長】

では、引き続き継続してほしい、という表現にしたい。29年度の事業計画についてはどうか。

【委員】

今回、収支予算書が資料に入っていないので分からない部分もある。本来は出してもらうべきだと思う。気になるのはスタッフの賃金が、常勤施設長で、月160時間で20万円。時給だと千円ちょっと。今、どこでも保育士が足りないので自治体が加算している状況で、市としてこの賃金でよいとするのかどうか。市として予算措置を手厚くしたほうがいいのか。

【委員長】

すすすく泉への意見ということなので、市への提言は少し方向が違う。

【委員】

ただ、予算措置がされていないとできない話だ。

【委員長】

そのあたり、事務局としてどうか。

【事務局】

保育については、法定に基づく公定価格は支払われているが、その振り分けを施設がどのようにしているのかは見えない部分がある。

【委員】

常勤の保育士を増やしてくださいというのは良いが、お金がないとできない。

【委員】

A型にするというのは、まだまだ先だと思われる。

【委員】

法人に関しては、保育士の資格取得を増やすとか、常勤を増やすと言ったことに努力してもらおう、ということだと思う。ただし、財源がないと厳しいと思う。

【委員長】

以前に、資格を持っている人とそうでない人で時給が40円しか変わらないという話もあった。

【委員】

最低賃金も上がっている。学生のアルバイトにも負けるのでは、ということもある。

【委員】

先ほどの、保育室長が、最初だけシフトに入って、後は入らない、という話も、予算がないからこうしているのか、理由はあるのか。

【委員長】



おそらく2分の1が保育士でなければならないので、保育士がいない時に室長が入る、というやり方をしているのだろう。このあたり、何か一言付け加えるか。

【委員】

保育士を確保してほしいと言うしかないか。

【委員長】

有資格者の保育士を確保してほしいということになるか。

【委員】

安定した保育ができるような体制にしてほしい、といった表現ではどうか。質を高めるために安全対策など、今後の課題とと思っていることはどんどん進めていってほしいと思う。一時預かりがいっぱいで、という話もあったが、建物の規模や組織の規模を考えるとそんなには手を広げられないはずなので、できる中での質の改善を目指してほしい。

【委員長】

そうすると、平成29年度事業計画に沿って、進めてもらうようにということと、安定した事業ができるような組織体制づくりに努力してもらいたい、ということをつけ加えるか。

【委員】

引き続きということでもいい。今も頑張っていると思う。

【委員長】

では「平成28年度第1回委員会意見への対応が進められ、研修や人材育成についての努力が認められた。平成29年度事業計画については、安定した事業ができるような組織体制づくりに引き続き努め、計画を進めてもらいたい」という文言で良いか。

【委員】

「collabono（こらぼの）コミセン親子ひろば」は自主的な発想でやっていて、共助の仕組みづくりに手を上げてくれているので、そうしたあたりは評価できると思う。

【委員】

アウトリーチができている。

【委員長】

最初のころに比べて、人材や質、メンバーの考え方や、組織づくりなどかなり進められた。では、意見については「平成28年度第1回委員会意見への対応が進められ、研修や人材育成についての努力が認められた。平成29年度事業計画については、安定した事業ができるような組織体制づくりに引き続き努め、計画を進めてもらいたい。」という文言を付すこととしたい。

### 3 閉会